

書物や文献を頼らずに

歩き回って伝承を集録

本と著者

A5判。318頁。2800円。橋本権文堂企画出版室。「蓮如さんの足跡」「蓮如さんの響き」の大きく二つにまとめられている。民俗学的解説のほか、上人の画像など写真を多く入れて親しみやすいものに。貴重な縁起や絵伝などの資料も。県内の真宗寺院の由緒まで記した一覧表がついている。序文で小倉会長は「蓮如上人像を考える得難い文献だ。なる信をふるとと風土よりと仰理解たよる」と述べている。



加能民俗の会編著「蓮如さん」編集幹事西山郷史さん

加賀と能登の民俗研究を目的に昭和十二年設立された「加能民俗の会」(小倉学会長)は、北陸では最も古い民俗学研究会団体だ。現在、会員は県内外の教師、会社員ら百六十人。年四回の会誌のほか、年二回研究誌を出しているが、本格的な研究書を刊行したのはこれがはじめて。

百超す「説話」

真宗王国といわれる北陸。今年は一向一揆(いっき)五百「その由緒は、十五世紀に北陸年にもあたることから、蓮如の行脚した蓮如上人に帰依して足跡を民間伝承からとらえてみ改宗したと伝えるものが多い。ようと会員全員が一致したのが

この出版のきっかけ」と編集幹事の西山郷史さんは言う。

「声なき声を拾う」のが民俗学。田舎に伝わる蓮如の伝承を、大半が真宗門徒である会員が歩き回って集録した。「書物、文献を重視する歴史学とは決定的に違うのがそこなんです」と西山さん。

短い「説話」が百以上集められている。蓮如が村人の求めに応じて植えたという「蓮如の松」の話(石川郡美川町)、蓮如の説法に感激した白山の神の話(福井県金津町)、蓮如忌に供える草団子の発祥(金沢市)……。「掛場という名字」(金

にしやま・さとし 珠洲市生まれ。飯田高校から静岡大、大谷大へ進み、仏教民俗学を学ぶ。現在、母校飯田高で国語を教え、実家である真宗「西勝寺」の僧として壇家も回る。「都市の民俗・金沢」「薬師信仰」などの共著がある。珠洲市飯田町。41歳。

沢市)では、説法にやってきた蓮如が、農民の家で休けいした。その後、蓮如が腰を掛けて休んだということで、この家の屋号が「カケバ」となり、明治以後、「掛場」の字を当てた、という話で、蓮如の影響の大きさがうかがえる。

西山さんは、「取材中、蓮如さんと呼ぶな、蓮如上人と呼べ」としかられた経験もある。それだけ、人々の心にはこの高僧の姿が今でも口から口へ伝えられ、生き続けているのです」と熱っぽく語る。

日本の民俗学の祖、柳田国男は、「歩いているうちに問題が見つかると言った。西山さんもその影響を強く受け、「にぎりめしを持って調べ歩く民俗学は名もない人々の学問。本来、権威は必要ない。しかし、民俗学が流行している今、一部の学者が幅をきかせたり、文献ばかりに頼ったりする傾向が出てきている」と憂えている。

「にぎりめしを持って歩き回るのが、民俗学の基本」と言う西山さん=金沢市片町1丁目、朝日新聞金沢支局で

